



江戸川区の 学童疎開受入校

昭和19年8、9月に375人が疎開し朝陽第一～第五国民学校(小学校)に分散して、提供を受けた一部の教室で学習しました。「鶴岡のあゆみ」

○朝陽第三小学校
学童疎開の縁で結ばれた姉妹校江戸川区立鹿本小と今も交流を続けています。校地に疎開学童の碑があります。「百年のあゆみ」

鶴岡にも空襲の危険が迫ると昭和20年7月朝陽第一～第五国民学校児童の集団疎開を決めました。また市内疎開児童の内431人の郊外への再疎開を決めました。

○鶴岡市立図書館
昭和20年8月1日、約2200冊の蔵書を上田沢地区の民家に疎開しました。「図説 鶴岡のあゆみ」

○大宝館 昭和20年8月ごろ空襲の目標にならないように白壁がコールタールで黒塗りにされました。「鶴岡市立図書館創立40周年記念誌」

マップの見方

- 疎開(そかい)
- 空しゅう
- 青い目の人形
- そのほか

江戸川区の疎開児童の宿舎

○鶴岡地区

17旅館 8寺院

昭和20年4月には鶴岡市の中心部だけで900人に達しました。「図説鶴岡のあゆみ」

戦争と平和を学ぶマップ
～鶴岡地区～
令和8年度版

○鶴岡駅
多くの出征兵士、満州開拓団員が万歳の声とともに送り出されました学童疎開の子が降り立ちました。

○旧市営グラウンド
若葉町にあった、旧鶴岡市営グラウンドが、食糧増産のため農園となり、小・中・高校生が動員されました。「山形新聞 昭和19年2月21日」

○丙申堂 昭和20年7月～東京の学習院中等科2.3.4年生が勤労働員で来ました。新茶屋で生活した子もいました。「学習院百年史」

○建物疎開 昭和20年7月・8月空襲に備えて、二度に渡って、内川端の建物1225戸を取り壊して、防火空地を作りました。「図説 鶴岡のあゆみ」

○鶴岡市役所
学童疎開の碑 平成6年学童疎開50周年の年に記念碑が建てられました。

○鶴岡第二中学校
広島市から寄贈された「被爆アオギリ二世」(広島修学旅行十周年記念樹)が、植樹されています。正門脇、駐車スペースの外側にあるので、車の出入りに注意して見学してください。

○報国農場
昭和16年4月から、朝陽国民学校では赤川河畔の荒地の開墾を行い報国農場と名づけました。秋には大豆、小豆、じゃがいも、大根などが収穫できました。「鶴岡市史 中巻」

○防空監視哨
昭和15年防空体制の確立のため、第五国民学校屋上など市内10箇所の防護監視哨が置かれました。「鶴岡市史 中巻」





空襲を受けた場所



江戸川区の学童疎開受入先

○大山・加茂・豊浦・藤島地区

湯野浜温泉 22旅館

湯田川温泉 17旅館

善宝寺

大山 民家に分宿 正法寺

再疎開

藤島 1寺院

渡前 1小学校 2寺院 1神社

「江戸川区の学童疎開」鶴岡市史中巻」

マップの見方

疎開(そかい)

空しゅう

青い目の人形

そのほか

○青い目の人形
昭和2年にアメリカの子どもたちから贈られて、戦争中は敵国の人形として激しく攻撃されました。その中を旧加茂小と湯野浜小では大切に守られました。旧加茂小の人形は加茂コミセンに受け継がれています。



撮影山形県立博物館

○海岸で塩づくり
塩の不足を補うために、塩田を作って盛んに塩作りをしました。その塩田が飛行場と思われて空襲を受けたと言われています。「湯野浜の歴史」

○湯野浜温泉の学童疎開
昭和19年に江戸川区から1715人の多くの児童を迎えました。「江戸川区の学童疎開」



撮影山形県立博物館

○七窪の松ヤニとり
子どもたちの勤労奉仕で、松の木から、飛行機の燃料として松ヤニをとりました。「大山町史」

○西郷小の空襲
昭和20年8月10日、アメリカ軍機から、校舎に機銃掃射を受けました。「図説 鶴岡のあゆみ」

○湯野浜地区の空襲
昭和20年8月10日、アメリカ軍機の空襲を受け、小学5年生一人を含む4人が亡くなり、11人が負傷をする大きな被害を出しました。「鶴岡警察署沿革誌」

○善宝寺の学童疎開
昭和19年に江戸川区の疎開児童88人を迎えました。「江戸川区の学童疎開」

○善宝寺の満洲開拓親子地藏尊
昭和22年10月、境内に満蒙開拓で犠牲になった人々を弔う親子地藏尊が建てられました。「満洲開拓親子地藏尊」



親子地藏尊

○藤島・渡前に再疎開
昭和20年7月になると、鶴岡市街にも空襲の危険が迫り、江戸川区の一部児童が、藤島(48人・渡前(100人)などに再疎開をしました。「鶴岡市史 中巻」
「学校沿革誌」には、藤島20余名、渡前120名とあります。

○湯田川温泉の学童疎開
昭和19年8月から、824人を受け入れました。「江戸川区の学童疎開」
元疎開児童による感謝の気持ちをこめた記念碑が建てられています。記念碑には885人とあります。



大山小学校の校舎

○大山小学校の校舎
昭和20年夏、空襲の目標にならないように、校舎の壁にススをつけました。「学童集団疎開と交流の記録」

○大山上池の桜並木
学童疎開で交流のある江戸川大山会から、平成18年に苗木50本をいただき植樹しました。「学童疎開集団疎開と交流の記録」



前水沢駅

○旧大山町の学童疎開
昭和20年、民家や寺院が受入れ先となり234人の児童が疎開しました。(135家庭が受け入れました)「大山学校百年の歩み」
「学童集団疎開と交流の記録」
戦後もお世話になった恩を忘れられないと交流が続ぎ、大山小の敷地に「学童疎開報恩碑」が建立されています。



報恩碑

○湯田川温泉の学童疎開
昭和19年8月から、824人を受け入れました。「江戸川区の学童疎開」
元疎開児童による感謝の気持ちをこめた記念碑が建てられています。記念碑には885人とあります。



記念碑

鶴岡市の児童の学童疎開
昭和20年7月、空襲の危険が迫る中で、朝暘三小の児童86人が、旧東郷村へ、四小78人が、上郷地区へ、五小63人が、旧横山村へ、それぞれ集団疎開しました。「鶴岡市史 中巻」

戦争と平和を学ぶマップ ～大山・加茂・豊浦・藤島地区～ 令和8年度版

国土地理院



○田川炭鉱 殉職者慰霊碑
炭鉱の事故で亡くなった100人あまりの人のために昭和57年に建てられた慰霊碑です。戦争中、多くの石炭を産出した田川炭鉱には朝鮮の人も多く働いていて、亡くなった人もいたそうです。「炭鉱のまち」「田川炭鉱」旧鶴岡北高郷土研究部

○豊浦村青少年開拓訓練所
満蒙開拓青少年義勇軍の送り出しを進めるために、八森山開墾地農場に仮設宿舎を建てて開拓移民育成を進めました。(昭和15年)「豊浦の歴史」

旧豊浦村青少年開拓訓練所

波渡時

五十川駅

いらがわIC

山五十川の

研沢山

鶴岡市の児童の学童疎開
昭和20年7月、空襲の危険が
予想される中で、朝陽第二小
の児童147人が、羽黒地区に
集団疎開をしました。
「鶴岡市史 中巻」



松根油緊急増産運動
松根赤だすき
松根油採取等のために
大鳥居から手向の集落
までの松林が、伐採され
たそうです。
「羽黒町史年表」

しょうこんゆ
○松根油の採取
松根油採取等のために
大鳥居から手向の集落
までの松林が、伐採され
たそうです。
「羽黒町史年表」



福島県矢吹町大池公園
しょうこんゆ

しょうこんゆ
松根油 太平洋戦争末期に
石油が乏しくなった日本は、
飛行機の燃料として、松根油
を利用しようとしてました。

○横綱羽黒山と松根油採り
昭和20年、横綱羽黒山をはじめ
とする立浪部屋の力士たちが、
羽黒の宿坊に疎開して松根油を
採る作業に当たりました。
○作業には鶴岡工業学校(現鶴
岡工業高)、庄内農学校(現庄内
農業高)などの生徒も動員されま
した。
「鶴岡市史 中巻」「鶴岡のあゆ
み」「庄内農学校47年史」

横綱 羽黒山が宿泊した宿坊の
宮田坊に詳しく展示されています

○青い目の人形
昭和2年にアメリカの子どもたち
から贈られた青い目の人形は、
敵国の人形として攻撃されまし
たが、旧羽黒一小で大切に守ら
れ、今は羽黒小の子どもたちに
受け継がれています。
「青い目の人形のお話」「羽黒町史」
鶴岡に贈られた人形は26体。そ
のうち3体が、今も残っています。



メアリー・キャロラインちゃん
撮影山形県立博物館

太平洋戦争の戦没者
○鶴岡市出身者 4930人
「鶴岡市戦没者追悼式より」
○山形県全体 3万4673人
「山形県社会課調べ」



各中等学校(現在の中学・高校にあたる)の主な勤労働員先
○鶴岡中学校(現鶴岡南高校)
中島飛行機会社太田工場(群馬県)
○鶴岡工業学校(現鶴岡工業高校)
学校を工場にして、飛行機の部品を生産
○庄内農学校(現庄内農業高校)
食糧増産のため、学徒援農隊として北海道に渡る
○鶴岡高等女学校(現鶴岡北高校)
横須賀の海軍航空技術廠(しょう)(神奈川県)
○鶴岡裁縫学校(後の鶴岡家政高校、現鶴岡中央高校)
鶴岡航空工業株式会社
「鶴岡のあゆみ」

国土地理院

マップの見方

- 疎開(そかい)
- 空しゅう
- 青い目の人形
- そのほか

戦争と平和を学ぶマップ
～羽黒地区～
令和8年度版



江戸川区の学童疎開受入先
 ○温海・朝日・櫛引地区
 温海温泉 23旅館
 鼠ヶ関 5旅館
 再疎開 本郷 2旅館 1寺院 1民家
 「鶴岡市史 中巻」「温海町史」
 「江戸川区の学童疎開」「記念碑文」

○塩作り
 昭和20年には、沿岸部の各地で塩田が作られ、製塩が行われました。
 国民学校の生徒も、勤労奉仕で作業に当たりました。
 「温海町史」「陽に輝いて」
 「蓬萊学校の百年」

○温海温泉の学童疎開
 昭和19年8月から、1391人の多くを迎え入れました。
 元疎開児童たちの感謝の気持ちをこめた記念碑が建てられています。
 「江戸川区の学童疎開」



○防空監視哨
 防空体制の強化のため、昭和14年に井岡塔の腰地区の丘の上に、昭和16年には本郷の「かたねこ山」、昭和18年には八森山に防空監視哨が設置されました。「新編庄内史年表」

鶴岡市の児童の学童疎開
 昭和20年7月、空襲の危険が予想される中で、朝陽第一小学校の児童167人が、櫛引地区の黒川と山添に集団疎開をしました。
 「鶴岡市史 中巻」

○満州開拓団と鶴岡
 満州開拓の国策を受けて、齋村・山添村・黄金村の3カ村合わせて200戸の「満州櫛引郷」の建設を計画。
 当時齋村長で歌人の上野甚作氏が団長を引き受け、昭和18年3月渡満。
 上野氏は昭和20年6月13日、ソ連軍侵攻の銃弾によって亡くなりました。

満州に新しい庄内・鶴岡郷を作る夢を描いて出発した開拓団には、「櫛引郷開拓団(錦星庄内櫛引郷開拓団)」以外にも「北五道高山形郷開拓団」「三股流庄内郷開拓団」「馬本屯庄内郷開拓団」「大和庄内郷開拓団」「楊栄園子庄内郷開拓団」「王福南庄内郷開拓団」「東村開拓団」そして満蒙開拓青少年義勇軍の少年たちがいます。
 他に「城子河開拓団」「永安屯開拓団」「朝陽屯開拓団」「大道河開拓団」などにも庄内の人が多く参加しました。
 また、7か月間の勤労奉仕の約束で満州に渡った「報国農場隊」の若者たちもいました。
 終戦前後から始まる悲惨な逃避行と収容所生活、シベリア抑留などの中で、山形県だけでも7000人を超える人が、命を落としました。「山形県史別編IV」

○本郷に再疎開
 昭和20年7月には、鶴岡市街も空襲の危険が迫ってきました。
 江戸川区の児童137人が、本郷に再疎開しました。「鶴岡市史 中巻」



写真102 防空監視哨跡から北方を望む

○市立図書館の図書の疎開
 昭和20年8月、空襲に備えて鶴岡市立図書館の約2200冊が民家に疎開されました。
 「鶴岡市史 中巻」

マップの見方

- 疎開(そかい)
- 空しゅう
- 青い目の人形
- そのほか

戦争と平和を学ぶマップ
 ～温海・朝日・櫛引地区～
令和8年度版

国土地理院



鼠ヶ関

○鼠ヶ関の学童疎開
 昭和20年4月から、三百数十人の疎開児童を迎えました。
 元疎開児童の感謝の記念碑が建てられています。
 「蓬萊学校の百年」

塩田



温海温泉



八森山

本郷



「かたねこ山」

上田沢